

## 授業づくり

### ■ これまでの取組における課題

- 子どもが思考し表現する場が少なく、教師の説明過多になりがちな授業が多い。
- 生徒一人一人に課題意識をもたせて学習に取り組ませることができていない。

### 【課題解決に向けた取組テーマ】

～「たっちゅうスタンダード」に基づいた、子どもが主体的に考える授業づくり～

### 指導の実際(以下の取組が効果的だった!!)

#### 《取組1》「たっちゅうスタンダード」に基づく授業構想

◇ 全教科で共通に取り組む授業の基本的な型「たっちゅうスタンダード」に沿った授業づくりを構想した。新たな知識や技能を習得していく際に用いる「習得スタイル(教えて考えさせる授業)」と、知識や技能を活用・発揮する問題解決型の「活用スタイル」の2つの授業スタイルで授業を構想するとともに、どちらのスタイルにも位置付けている展開段階での協働学習、終末段階での振り返り活動の充実を図った。

#### 《取組2》「めあて」「まとめ」「振り返り」の活動の充実

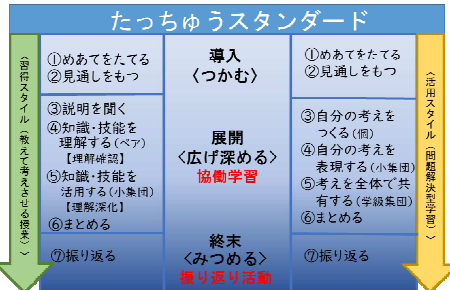
◇ 「めあて」「まとめ」「振り返り」を行う目的及び大切にしたいポイントを全職員で共有するとともに、指導案審議等において、ポイントに沿った協議を行った。特に、「振り返り」については、教科部会で振り返りの具体的な方法や視点を話し合ったり、校内研で各自の実践を交流したり、振り返りの価値や課題を整理したりすることで、評価改善を行った。

#### 《取組3》学習段階を焦点化した授業改善

◇ 「たっちゅうスタンダード」の各学習段階を焦点化し、学習活動の質の向上を目指した。「つかむ」段階では、子どもが課題意識をもつための導入の工夫について、「広げ深める」段階では、協働学習の前の個の思考場面における子どもが自分の考えをもつための工夫について全体研修を行った。

#### (取組1、2、3の成果)

- 共通の授業の型があることで、教科の枠を超えてみんなで共通実践していこうとする意識が高まった。
- 「めあて」「まとめ」「振り返り」のある授業づくりを継続し、評価・改善を行ったことで、「めあて」「まとめ」「振り返り」の質の向上を図ることができた。
- 学習段階を焦点化した授業改善を行ったことで、授業改善のポイントが明確化され、実践しやすい取組となった。



【「たっちゅうスタンダード」に沿った学習過程】

	目的	大切なポイント
めあて	子どもがめあて(目的のゴール)や「ゴールをそれまでの達成」を明確にする	①「めあて」の3要素(次の3つが入るめあて) ②「何故」【目的】 ③「どのように」【方法】 ④「どうするか」【自己活動】
まとめ	子どもが単元・学習方法の整理・振り返りを行う	書き出しやカードをもち、子ども自身の言葉でまとめを書く
振り返り	①子どもが自分の学びを客観的に把握する(他者の育成・学びの可視化) ②教師が子ども一人ひとりの実態を把握し、個別の支援や指導、評価、家庭学習につなげる	振り返りの3つの視点 ①「何を学んだのか」…知識・技能の視点(分らなかったところを含む) ②「どのように学んだのか」…思考力、判断力、表現力の視点 ③「どう生かしていくのか」…主体的に学習に取り組む態度の視点

【「めあて」「まとめ」「振り返り」について 共通実践している内容】

## 組織づくり

### ■ これまでの取組における課題

- 授業力向上を目指した人材育成システムが構築できていない。
- 全ての教師を巻きこんだ校内研修を行うことができていない。

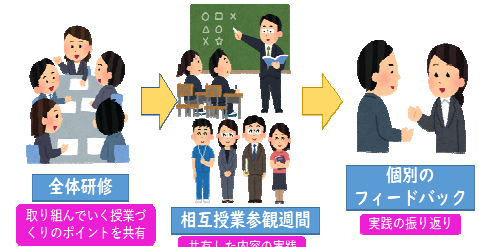
### 【課題解決に向けた取組テーマ】

～全ての教職員で一体感をもって推進する学力向上～

### 取組の実際(以下の取組が効果的だった!!)

#### 《取組1》日常の授業改善システムの構築(相互授業参観による授業力の向上)

◇ 個々の指導技術や授業改善に対する意欲の向上を目指し、右図のような「相互授業参観システム」を実施した。教師同士が自由に授業を見合う相互授業参観週間では、授業場を焦点化し、視点を示した参観シートを用いてお互いの授業を参観した。個別のフィードバックでは、授業後に「たっちゅうコアティーチャー※」が、授業参観の視点と指導技術等に関する個別のアドバイスをを行った。



【「相互授業参観システム」のイメージ図】

- ・自分で改善ができていないのかわからないので誰かに見てもらうことはとても貴重な機会だった。
- ・指導案作成などの負担がなく、日頃の授業を見てもらって、アドバイスを受けられるのは良い機会だと思う。
- ・自信がもてたり、頑張ろうと思ったりするいいきっかけになった。

※ 「たっちゅうコア・ティーチャー」とは、学校独自に選出している授業改善の核となる教員のこと。

#### (取組1の成果)

- 全員で共通確認した授業づくりの取組内容を、日常での実践につなげ、客観的にフィードバックすることで、授業力向上と授業改善への意欲向上につながった。

#### 【個別のフィードバック後の感想】

#### 《取組2》授業改善の取組の日常化(たっちゅうカフェの実施)

◇ 学力向上に向けた取組に全教職員が主体的に取り組むことができるように、授業づくり等の取組に関する疑問や悩みを自由に意見交換したり、テーマに沿って様々なアイデアを出し合ったりすることができる「たっちゅうカフェ」を企画し、実施した。



【「たっちゅうカフェ」で 意見を交換する様子】

#### (取組2の成果)

- 授業づくり等について熱心に話し合ったり教え合ったりする教師の姿が見られ、学力向上に取り組む一体感が醸成された。

### ■ 授業づくりの取組における課題(●)、及び次年度の方向性(◇)

- 教師一人一人の授業における質の向上を図るために、主眼と教材分析を深める必要がある。
- ◇ 「たっちゅうスタンダード」に沿った授業づくりのポイントを明らかにするとともに、単元の「めあて」と「まとめ」を明確にした授業実践に取り組むなど、単元全体を見通した授業づくりを構想する必要がある。

### ■ 組織づくりの取組における課題(●)、及び次年度の方向性(◇)

- キャリアや能力等に応じた指導力向上の支援体制が日常化できていない。
- 研究組織内の各部会の充実と共通理解が不十分であった。
- ◇ 相互授業参観の日常化や異教科で構成されたグループ研修の充実を図る。
- ◇ 研究組織内の各部会における取組の評価改善に向けた組織体制の見直し。